

■耕作断念の現実に向き合い再生を目指す 補助金から補助人へ

喜多方市では平成 21 年度に「集落支援塾」を開講し、集落支援員のレベルアップと次に続く人材の発掘と育成を始めました。1 年の活動を振り返り、支援している・支援してもらっているという関係では自立した活動に結びつかないとの反省から、今年度から「集落元気塾」と改称しました。再生に向けた活動は、地域資源の種類と住民の意向を尊重するため方法も様々です。今回は、F 集落における社会実験の様子を中心にをご紹介します。

大学生の力を活かした活動

F 集落区長さんからの挨拶。今回の社会実験「耕作断念地の再生」では、集落の皆さんが大学生を指導する師匠として活躍しました。筆者もアドバイザーとして紹介していただきました。



集落の皆さんが師匠です

鍬を持つのは初めてという大学生を見かね指導するお母さん。こういうときの集落の皆さんは生き生きとしています。集落の皆さんの知恵や技術に学ぶという姿勢でかかわることにより、集落の皆さんも参加者も皆元気になる。元気塾の名称の由来です。実際作業をしてみると細かい技術の積み重ねに驚かされます。



赤筋大根で地域振興を果たせるか!?

会津地方に古くから伝わる伝統野菜「赤筋大根」の播種作業。ブランド化することにより、耕作断念地の再生や集落活性化につなげていきたいとの構想から昨年を引き続いての取り組みです。今回は、筆者も作業に参加しました。



目下の悩みはサル被害

F 集落での社会実験について集落の皆さんと参加者との間で意見交換を行いました。赤筋大根のブランド化など夢のある活動が試みられる一方で、集落の皆さんの目下の悩みは『サル被害』であることがわかりました。このように集落の皆さんと社会実験にかかわる人々との間で問題共有を図る場面も本取り組みの特徴です。サル対策についても検討していくことが確認されました。



第3回元気塾(平成22年8月3日開催)の様子

第3回の元気塾では市内K地区にお邪魔し、当地区を拠点に活動する団体のお話を伺いました。街場近くに立地するという当地区の特徴を活かしながら、個々の活動を地区全体(10集落)の活動に発展させていくために今後どのような工夫が必要か、塾生の皆さんで具体的アイディアを出し合いながら考えました。筆者は進行役を務めました。



平成21年度の取り組みの中から ワークショップにチャレンジ

昨年度は、市内S集落にお邪魔し塾生の皆さんによる集落点検ワークショップ実習を行いました。具体的なアイディアが出されS集落の区長さんからも講評をいただきました。筆者はワークショップ手法の指導を行いました。



ご当地ラーメン